（別紙4）　　令和　7　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2190104279		
法人名	社会福祉法人　髙佳会		
事業所名	長森いきいき倶楽部ラシックグループホーム		
所在地	岐阜市北一色10丁目38番地1		
自己評価作成日	令和7年12月20日	評価結果市町村受理日	令和8年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2190104279-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和8年1月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

法人理念「ゲストに満足と笑顔を、地域に安心と輝きを」に基づき、ご利用者様の時間を無駄にせず、大切に過ごして頂く為、生活リハビリ（ADL、IADL）を中心に行っており施設周りや施設内を散歩したりしています。また、職員の認知症ケア研修にも力を入れており、ご利用者様の気持ちに寄り添い、残存能力の維持にも力を入れています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

法人理念「ゲストに満足と笑顔を、地域に安心と輝きを」に沿って、複数の介護施設を運営している。人に寄り添うのではなく、「その人」に寄り添う支援を行なっている。玄関を入ると、ホテルのロビーのような豪華さと落ち着いた雰囲気がある。グループホームは3階にあり、窓からの見晴らしも良い。2ユニットの中央にキッチンがある。照明は利用者の体内リズムを整えらるサーカディアン照明が使われており、利用者はホテルでの生活を楽しめるような環境となっているが、地域との連携が薄く、地域住民に事業所について知られていないのが残念である。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：15）		1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
		○	3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：14,27）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：27）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：25,26）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：36）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：20）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：18）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：8,9）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：3）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
53	職員は、活き活きと働けている（参考項目：10,11）		1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
		○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
		○	3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

岐阜県　長森いきいき倶楽部ラシックグループホーム

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が法人理念を念頭に置き、少しでも利用者の人生史を傾聴するよう努めている。	理念「ゲストに満足と笑顔」を目標に、職員は利用者の笑顔が見られるよう、日々、支援に取り組んでいる。「地域に安心と輝き」も掲げているが、外国籍の職員が多いせいか、地域住民の理解を得て実践に繋げるには、時間がかかりそうである。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員は出勤時や退勤時、ご近所の方とすれ違う時には挨拶をかわしている。感染予防により地域交流は少ない。専門学校の施設研修が増え外部との、交流機会が増えた。(岐阜衛生専門学校)	自治会には加入しているが、感染症対策もあり、地域と連携した活動はできていない。職員の出勤時や退勤時に、地域の人と挨拶を交わしている。地域の専門学校の研修場所、体験学習の受け入れを行うなど協力している。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議にご利用者様ご本人が参加されている。家族等参加をする方向にしたい。	運営推進会議は同法人施設と事業所合同で開催している。活動報告や今後の取り組みについて意見交換を行っている。地域代表の参加がなく、自治会の参加も得られないのは、事業所があるエリアに類似施設が多いという理由である。	運営推進会議に自治会代表の参加が難しいのであれば、地域の団体や研修等で交流のある関係機関に参加依頼の声かけを行うなど、工夫したい。また、参加しやすい開催曜日の工夫にも期待したい。
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を中心に、事業で行われた実績等常に報告している。市役所の職員は不参加が多い。感染対策にてメール・FAX等にて報告している。	地域包括支援センターや民生委員は、運営推進会議への参加があるが、市担当者の参加は得られていない。事業所の実情を報告し、助言や指導を受けたり、相談できる体制はあり、協力関係を保っている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご利用者様の動きに制限を設ける事は認知症の進行に繋がる事を認識し、家庭的な環境の中で見守りが出来ている。	身体拘束廃止委員会を定期的に開催し、議事録を全職員が回覧し、動画研修も行なっている。3つの主な拘束「言葉」「薬」「身体的」について学んでいる。特に言葉による拘束「スピーチロック」は、無意識に使っていることを認識している。話し合いながら、適切な支援の実践に繋げている。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	委員会・研修を実施し、職員教育をしている。動画研修等実施している。	虐待防止検討委員会を合同開催し、各事業所管理者は会議内容を職員に報告している。虐待防止についての動画やマスコミ報道などを題材に職員間で話し合い、理解を深めている。ヒヤリハット事例などを共有し、不適切ケアにつながらないよう取り組んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	安全を確認しつつ、自由な暮らしを支援する工夫をしている。権利擁護については、管理者が対応しているが、初期的な窓口の相談は、担当職員が主として接している。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約時、契約書と重要事項説明書に沿って充分な説明を行っている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びにに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族へ定期連絡を行い、ご家族との相談をおこなっている。計画書の作成に役立てている。	運営推進会議に家族代表が参加し、意見交換している。管理者は、月1回は家族に電話を入れ利用者の様子を伝えるようにしている。行事の際の写真を中心に掲載した便りを毎月送付している。今後、職員の担当制での報告も検討している。	現在、利用者の様子を、家族に報告する際の担当職員を決めることを検討中である。外国籍の職員が多く、様々な課題も予想されるが、工夫しながら新たな支援の実現に期待したい。
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時、意見、報告や提案できるようにしている。連絡書の発行。常に情報の共有・意見交換が出来る体制になっている。	外国籍の職員が多いが、資格も取得し、コミュニケーションも取れている。食事作りも学びながら日々取り組んでいる。現在の管理者は、組織運営チームとしても、改善に向けて取り組んでおり、普段から現場に入って状況を把握し、職員の意見を聞いている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	面談の時間を作り、適切なアドバイス・助言随時行い、相談をしている。	ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境作りに努めているが、職員の移動や離職が多く、家族からも心配する声が聞こえる。職員配置については、管理者は具体的な取り組みや支援方法について、代表と共に話し合っている。	朝夕の申し送り、主任会議、委員会、定期面談など、管理者と職員が連携を図れる体制の強化や、適切な職員配置等、就労環境の整備等に期待したい。
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	朝礼や日々の申し送りで各自、その日に連絡、報告し、迅速に解決している。研修会へも、必要性、要望があれば出向いている。法人が率先して研修をおこなっている。	内部研修の機会を多く設け、職員のモチベーションを高めている。また、法人の教育制度があり、キャリアアップ支援や研修制度を活用し、利用者の状態を把握した上で、専門職として適切な支援を行えるよう年間研修計画を立てている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会つくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域連携の一環として会議・講習会の参加を行っている。また地域ケアとして、他施設への紹介もおこなっている。ネットワーク会議に必ず出席し意見交換・情報の共有に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や食事･掃除など日常生活、特に家事を中心に「共に過ごして助け合う」事を重要としている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフ全員が一人ひとりの思いや希望について関心を持ち、情報を共有している。入浴時間や食事場所等、ご本人様と相談を行いケアにつなげている。全職員にてケアの方法考えている。	個別ケア時は、利用者が自分の思いを言えることも多い。表情や仕草、言動の観察に努め、情報を共有している。利用者の思いや願いを叶えられるよう、より良い支援の実践に取り組んでいる。見守り安心システムがあり、利用者の安全を確認している。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族来館時等の要望やゲストの気持を毎月のサービス担当者会議や計画作成に活かしている。またモニタリングを行い、新たな計画へ展開できるよう努めている。	介護計画作成時は、できる限り家族と面談の上、利用者の状態を伝え、意向を聞いた上で医師や看護師の意見も参考に作成している。介護計画作成後は家族に説明し、モニタリングはケアマネジャーが中心となって行い、現状に即して見直しも行なっている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には、ゲスト様の様子や過ごし方を記録して、身近に支えるスタッフがわかる事実や気づきを記録に残している。毎月担当職員がモニターリング記録して介護計画に活かしている。	職員は、利用者の日々の様子やケアの実践、結果等から気付いた事があれば、速やかにタブレットにて記録している。全職員が情報を共有し、利用者の状態をさらに観察しながら、介護計画の見直し等に繋げている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ゲスト様やご家族様の要望にあわせて歯科往診の手配、主治医へゲスト様体調変化が見られた場合情報を送り対応の相談指示を仰ぎ対応している。	家族の対応が困難な場合は、事業所が代行している。利用者のかかりつけ医への受診や歯科医の往診が必要な場合は、柔軟に対応している。また、併設の訪問看護ステーションで医療面の相談ができ、家族の安心にも繋がっている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スーパーやコンビニ、ドライブと活動したいが、車の運転人数に限りがあり、出来ていない。感染対策にて自粛している。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日々の生活の様子を記録し、往診日の事前に連絡している。ご家族様の希望で、ご家族様がお連れして、かかりつけ医の受診をして頂いております。	契約時に、かかりつけ医についての事業所方針を説明している。協力医の往診は定期的にあり、日々の利用者の様子を伝え、利用者の健康管理に努めている。他の医療機関への受診は家族同行としているが、家族の希望で事業所が対応することもある。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療連携をしている各主治医の紹介の病院に受け入れて頂いている。 入院先のソーシャルワーカーと連携し状況・状態の把握に努めている。	入退院時の対応は管理者が行い、病院のソーシャルワーカーや家族と連携し、利用者の状態を把握している。退院時カンファレンスには、管理者かケアマネジャーが参加し相談しながら、ホームの受け入れ態勢を整えている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より終末期の考え方を理解し、ゲスト様・ご家族様と共有している。ADLの低下が見られ始める毎に御家族と相談し、理解を得ながら、提携医・訪問看護師との連携をしてターミナルケアを行う。ユニット内でも研修行う。	契約時に、重度化や終末期の対応について、事業所の方針を説明しており、利用者・家族は了解している。利用者の状態変化時は医師を含め関係者で相談し、家族の意向を尊重した支援方針を決定している。職員は終末期支援の研修を重ねている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを設置しているが、訓練は出来ていない。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施、災害時に備えている。非常時の食料や飲料水は備蓄しており、定期的に確認。運営推進会同時開催時には地域の代表者に参加いただく。災害時連絡先には地域にも自動で入るよう協力を得ている。	避難訓練では職員配置の確認、関係機関への通報、消火器を使った訓練や備蓄品の点検等を行なっている。訓練の様子を運営推進会議で報告し、助言を得ている。現在、地域との協力体制は出来ていないが、今後、事業所の訓練予定を伝え、地域の防災訓練への参加も検討している。	周辺には、総合病院やコミュニテイセンター、介護事業所等がある地域であり、行政と共に、地域との協力体制作りをめざし、災害対策強化への取り組みに期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ゲスト様の既往歴を把握し、言葉かけを大切にしている。誇りやプライバシーについても尊厳を持った接し方に心掛けている。	外国籍の職員が多く、言葉の壁はあるものの、利用者の誇りやプライバシー保護の意味を理解できるよう、接遇研修で学んでいる。適切な言葉かけや言葉遣いで、利用者への支援を行うよう全職員で意識化を図っている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	問いかけや疑問形で声かけをしている。表情や動きから思いを察し、自己決定ができるよう働きかけている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゲスト様の要望をお聞きし、予定を一緒に立てている。管理者やケアマネは定期的に現場に入っている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好みに合った食事が出来るようにメニューの確認、準備、食事、後片付け等を一緒に行っている。行事や祭日には旬の食材を取り入れたメニューで提供し、お誕生日には食べたい物をお出ししている。	食事は、三食とも職員が調理している。外国籍の職員も日本食の献立や調理方法を学びながら、取り組んでいる。時には母国の料理を作って提供することもある。季節に応じた行事食や誕生日には、利用者の好きな物を提供している。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	野菜を多くしたバランスの取れたメニューを作成している。たんぱく質を重視し、血液検査の結果を基に思案している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っている。希望されるゲスト様には歯科衛生士により口腔内の確認を1週間に一度してもらいご本人様に合った介助を行っている。	法人代表が歯科医師であり、事業所内に歯科診療所がある。全職員が口腔ケアの必要性を認識しており、利用者も毎食後のケアを実践している。歯科衛生士が定期的に検査を行い、口腔内の清潔保持に努めている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表などから排泄パターンを読みとり、排泄管理を行う。前もっての声かけや誘導で日中は紙おむつの使用量が減ってきている。夜間も声かけ等の実施している。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	なるべく利用者の希望に応じた時間を提供し、異性入浴介護を拒否される方は同性介護を行っている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を把握しご自身のペースで休んで頂くよう支援を行っている。夜間寝れない時は声掛けをし、安心するまで傾聴し入眠の手助けに努めている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員がすぐに確認できるようにカルテに薬情を挟んでいる。毎日の服薬確認印も行い職員間でダブルチェックを行い飲み忘れのないケアを行っている。	薬剤師が薬を保管庫に入れている。薬の変更時は全職員に説明している。服薬支援時には、複数職員で確認を行い、誤薬や飲ませ忘れのないよう注意している。利用者が飲み終えるまでを確認し、ヒヤリハットや事故防止に努めている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手芸など趣味がある方は好きな時間に好きな場所でやりたいことを行っている。毎日歌や体操を行っている。	利用者のこれまでの生活習慣や趣味を把握し、家事作業や趣味などを一緒に行えるよう支援している。歌の好きな人、体操をする人、手芸など、好きな事を自由に行なう事で、張り合いのある生活ができるようサポートしている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出は制限をかけているが施設周りの散歩は人との接触が少ない為行っている。家族との外出が多くなるように制限の緩和している。	現在も、コロナ禍での行動制限や他の感染症対策を継続しており、外出支援が難しい。また、職員の退職が続き、計画を立てても実行できていない状態である。家族に依頼して外出する利用者もあるが、日常の外出の機会がなく、家族からも不満の声がある。取り組みを検討中である。	近隣には公共のコミニュテイセンター等があり、上手く活用する方法を検討されたい。家族やボランティアの協力を得るための体制作りを考え、利用者の外出支援の実施に期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭トラブルを防ぐ為お金の持ち込み、預かりは行っていません。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している利用者も見え、家族や知人に連絡を取れる環境にあります。施設の電話を使い、家族等とお話される方もいます。施設に手紙が届くのでその都度手紙をお渡ししています。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースにオゾン発生装置を設置しており、ウイルスの感染予防対策を行っている。照明に関してもサーカディアン照明を採用し、体内リズムを整え、質の高い睡眠と日常を保って頂いている。	共用の空間は広く清潔である。生体リズムを整えるサーカディアン照明を使用している。トイレ、浴室、居室も重度化が進んでも、安心して過ごすことができる環境となっており、利用者はホテル感覚で過ごしている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自然が見渡せ、気の合った利用者同士が過ごせる場所があり、マッサージ機も設置してある。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはエアコン、洗面台、ベッド等設置している。本人や家族と相談しながら使い慣れた家具や洋服等をなるべく持ち込んで頂き、1人1人に合った好みの空間を作っている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自身で行けるように廊下に手すりがついており、場所が分かるようにトイレにはトイレマーク、各居室のドアには名前が貼ってある。		